2. 肺シンチグラムが診断上有用であった肺梗塞症例

高橋 良夫 青山 喬
木村 和文
（阪大・中放）
木下 直和 西村 恒彦
永田 正毅 松尾 裕英
榊原 博 仁村 泰治
阿部 裕
（阪大・一内）

肺硬塞症の診断に肺シンチグラムが有用であることについては，内外の幾多の症例が示すとおりである．我々も今回，種々の臨床検査上，肺シンチグラムが最も有力な診断法であった肺硬塞症例を経験した．

症例は26才男子．労作時の呼吸困難が2カ月続き，突然胸部圧迫感についで，数分の意識消失発作を来たした．その後は狭心症様の症状が続き，血痰をしばしば喀出した．発作1カ月後の初診時の心電図は右室肥大，右房負荷を呈したが胸部レ線像は著変を認めなかった．そこで右心系の心疾患及び肺動脈疾患を疑い精査のため入院，心カテーテル検査を施行した．肺動脈圧測定後，状態急変あり肺動脈及び右室の造影は中止し，肺動脈圧，収縮期89，拡張期39，平均59mmHgの肺高血圧の所見を得るのみであった．そこで ^{131}I-MAA による肺シンチグラムを施行したところ，両側肺の像は全般に不均一を呈し，多数の血流障害部分が存在し，肺硬塞症と診断した．さらに ^{125}I-フィブリノーゲンの全身スキャンを施行したが，陽性所見はなかった。その後抗凝固剤の投与で自覚症状は若干改善したが，労作時の呼吸困難はとれなかった．3カ月後経過観察のため肺シンチを施行した．この所見は二次元像では著明な障害部が不明瞭であるが，128×128マトリックスの三次元表示で像を回転させて観察すると multiple embolism が未だ残存していると思われる小欠損部がよく観察された．以上肺シンチグラムが診断と経過の観察に有用であった1症例を示した．

3. ^{133}Xe による肺シンチグラムで有意義な所見を認めた肺癌の3症例

牛尾 啓二 桂 武生
伊藤 一夫 松尾 導昌
井上 善夫 西山 章次
（神戸大・放）

胸部正面単純写真上，異常を認めない2例に経時的 ^{133}Xe 肺シンチにより異常所見を認め同部に肺癌を証明した．又上葉無気肺を呈している肺癌症例に，放射線治療の効果を容易に観察し得たので報告する．

（症例 1）3ケ月間にわたり咳嗽喀痰を訴え来院した62才男性で，胸部写真上は異常を認めなかったが，^{133}Xe-solution による経時的肺シンチで右中野の血流低下と，wash out phase の gas trapping を認め，Bronchography 等で β^3 起始部の閉塞を確認し squamous cell carcinoma が証明された．

（症例 2）約1ケ月間の発熱，咳嗽，喀痰を訴えた74才男性で胸部正面単純写真上，右中肺野の索状景がみられた．V.S.S 法により ^{133}Xe gas を吸入させると左全肺野で吸入低下を認めたため Bronchoscopy 等を行い，左主気管支のポリープ状の cystic adenocarlinoma を証明した．

（症例 3）右上葉無気肺を呈している51才男性に ^{133}Xe-肺シンチを行い右全肺の血流が全く無く，wash-out phase にて，右肺の gas trapping を認めた．放射線治療後の ^{133}Xe 肺シンチでは上記所見は消失し治療効果を血流と換気の面で容易に判定出来た．以上3症例より ^{133}Xe 肺シンチが，肺癌のスクリーニング及び治療経過の観察に有効である事を証明した．

Presented by Medical*Online